

《抄 録》

初産牛の乾乳期短縮が産乳と繁殖性に及ぼす影響

大澤 玲*・福井陽士**・榊原裕二***・眞鍋典義****・岩本智恵子*****・高松英里奈*****・佐沢公子*****・森川繁樹*****・秋好佑紀*****・西村慶子*****・三宅 歩*****・佐藤 精*****・高橋優希*****・宮腰雄一*****・永墓訓明*****・真貝拓三*****・伊藤文彰¹⁷⁾・野中最子*****・田鎖直澄*****

家畜衛生学雑誌 (49) 189-198, 2024

*埼玉県農業技術研究センター・**千葉県畜産総合研究センター・***茨城県畜産センター・****岐阜県畜産研究所・*****富山県農林水産部農業技術課・*****福井県丹南農林総合事務所・*****宮城県仙台家畜保健衛生所・*****徳島県農林水産総合技術支援センター・*****熊本県上益城地域振興局・*****宮崎県南那珂農林振興局・*****岡山県井笠家畜保健衛生所・*****愛知県農業総合試験場・*****岩手県久慈農業改良普及センター・*****新潟県農業総合研究所畜産研究センター・*****三重県中央農業改良普及センター・*****国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門・*****国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構北海道農業研究センター

要 約 ホルスタイン種初産牛の乾乳期 35 日への短縮と、乾乳 期飼料へのバイパス蛋白質添加が、次の乳期の産乳と繁殖性に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした試験を実施した。試験区は、慣行的な乾乳期 60 日の「対照区」39 頭、乾乳期を 35 日に短縮した「短縮区」32 頭、乾乳期を 35 日に短縮し飼料にバイパス蛋白質を添加した「短縮強化区」37 頭により行った。その結果、試験期間である 16 週間の乳量は短縮区および短縮強化区で減少したが、乾乳期を短縮し搾乳延長した乳量を合わせると試験期間乳量は対照区と同等の乳量となった。また、泌乳初期の負のエネルギーバランス状態を緩和できた。乳成分は短縮区、短縮強化区で乳脂率、乳蛋白質率、無脂固形分率が向上した。繁殖成績は、短縮区、短縮強化区ともに発情回帰日数が早まり、短縮強化区で累計受胎率の立ち上がりが早まった。以上から、ホルスタイン種初産牛の乾乳期を 35 日に短縮すると、乳生産量は低下するが、栄養の充足により健全性および繁殖性を向上させる可能性が示唆された。さらに乾乳期にバイパス蛋白質を給与することにより、より健全性や繁殖性が高まる可能性が示唆された。